# 農林水産省 食料産業局長賞

一般財団法人姫路市学校給食会(兵庫県姫路市(ひめじし)) ~栄養教諭等と生産者の橋渡しによる地場食材の供給~

## 組織概要

- ○代表者 理事長 谷田 睦
- ○所在地 兵庫県姫路市 ○構成員 消費者約35.000名等 ○活動開始年 昭和26年







# 受賞のポイント

- ●当給食会が中心となり、学校関係者等と出荷規格等についての調整を行い、調整した内容を生産者 に指導することで、これまで利用されていなかった地場産食材の使用量が増加し、地域の農業・水産業 の振興につながっている。
- ●栄養教諭等に対する圃場等の視察研修を定期的に実施し、地域の農林水産物について理解してもら うことにより、学校での地場産物の使用の増加につながっている。
- ●大量の地場食材を計画的・安定的に供給しており、都市部の学校給食における地産地消のモ デル的取組である。

# 取組内容

### ■取組みの経緯・成長の契機

- ・食生活の変化により、朝食を取らない子どもが増えるなど偏った食生活が問題となったこと から、平成20年に姫路市で食育推進計画が策定されたことをきっかけに、姫路市教育委員会 と連携し、地場産物の活用を一層促進することになった。
- ・姫路市では市内小中学校をグループ分けし、グループ毎に同一の献立を提供しているが、最 低でも1万食以上は同じ食材が必要となることから、必要な数量を供給するため、給食会と栄 養教諭や学校長等が卸売市場、農業者、流通業者等へ出向き、規格や梱包方法の指導、値段の 交渉等を実施。

#### ■取組みの特徴・活動の強み

- ・地場産食材の利用拡大を図るため、卸売業者等の関係業者や学校の栄養教諭・調理師と食材 規格や出荷コンテナの統一、梱包方法等の出荷規格等について調整を行い、生産者に栽培や出 荷等の指導を行うことで、地場産物の供給量が増加。
- ・栄養教諭等に生産者のほ場等での現地研修を定期的に実施することで、地場農林水産物への 理解が深まり、学校給食における地場農林水産物の使用が増加。
- ・栄養教諭が学校給食献立作成段階に、どんな時期にどんな地場産食材が使用できるかをわか りやすくするため、品目毎に産地・月別の価格帯・出荷時期等を記載した「地産地消カレン ダー」を作成し、提供。
- ・市内89校の小中特別支援学校に、約35.000食/日もの大量の地場食材を計画的・安定的に供給。

### ■地域への貢献・波及効果

- ・出荷規格等の調整と併せて生産者へ栽培や出荷等の指導を行うことで、従来は学校給食用と して出荷できなかった地場農産物を出荷できるようになり、学校給食で多く使用する野菜(9 品目)の姫路市産率(重量ベース)は平成25年度61%(平成23年度55%)に増加した。
- ・水産物についても、出荷規格等を地元漁協に指導することで円滑に納品できるようになり、 給食食材として使用する地場水産物の出荷品目数が増加し、水産業の振興につながっている。

# 全国地産地消推進協議会 会長賞

特定非営利活動法人おおつきエコビレッジ(山梨県大月市(おおつきし)) ~農地·山林を再生し、交流を通じた循環型社会を提案~

# 組織概要

○代表者 理事長 佐々木 利行 ○所在地 山梨県大月市富浜町

○構成員 生産者85名

○活動開始年 平成17年3月







## 受賞のポイント

- ●30年間荒廃状態にあった10haの土地を再生し、その土地で栽培した農産物を地元の直売所等で販売するほか、体験農業の実施や企業の福利厚生活動の場として受け入れを実施するなどの企業と連携した活動、市民農園の貸し出し等の幅広い活動を行うことで、市民だけでなく、都市農村交流が図られ、地域の活性化につながっている。
- ●地域の小中学校、短期大学と連携して、栽培から販売体験までの一体的な農業体験学習等を行うことで、地域の農業や農産物に理解が深まっている。

### 取組内容

### ■取組みの経緯・成長の契機

- ・大月市は山間地のため、生産性の低い傾斜農地や小規模農地が多く、過疎化の進む状況の中、 耕作放棄地が増加している。また、就業環境や意識の変化により、若者の農業離れが進んでいる。 そんな状況を打開するため、30年間荒廃状態にあった民間の土地の寄付を受け、環境保全型農業、 農地を活用した都市農村交流等の推進を図る目的で、大月市が構造改革特区「大月エコの里特 区」の認定を受ける。
- ・趣旨に賛同した市民や都市部の定年退職者など約30名が中心となり、平成17年3月に「特定非営利活動法人おおつきエコビレッジ」を設立し、活動を開始。
- ・約10年にわたり計画的な事業執行を進め、4haが農地として6haが里山として再生された。

### ■取組みの特徴・活動の強み

- ・再生された農地で栽培されたサツマイモ、白菜、古代米(黒米)や里山再生で発生した間伐材で栽培した椎茸等をエコの里内の無人販売所や地元の農産物直売所、市内イベント・マルシェ等で販売。栽培から収穫、加工などを行う体験農業(240人参加:蕎麦づくり体験教室、小麦栽培教室)、首都圏の企業と連携した大豆の生産から豆腐づくり、企業の福利厚生活動の場としての受け入れや市民農園(30区画)の貸し出し・営農指導の実施、収穫祭の実施などの幅広い活動を通じて、一般市民や首都圏企業の社員・家族などとの年間を通した交流が行われている。
- ・地域の幼稚園や小中学校と連携した農業体験学習や市内の短期大学と連携した地域再生・地域 づくりを実践的に学ぶ古代米の栽培実習や販売体験を通じて、地域農業や農産物への理解を深め る取組を実施。
- ・化学合成農薬と化学肥料の使用を極力控えた環境にやさしい農業を実践し、地域における環境 保全型農業の取組を推進している。

#### ■地域への貢献・波及効果

- ・市民、都市住民への体験農業の実施、市民農園の貸し出しなど<mark>幅広い活動を実施することで、 交流人口が増加し、地域の活性化につながっている。</mark>
- ・環境にやさしい農業を実践することで、地域農業者の環境保全に対する意識の向上につながっている。